

第4回地域政策懇談会（西三河地区②） 意見交換の概要

平成25年6月24日（月）午後2時45分～4時15分

愛知県西三河総合庁舎 7階 701会議室

（碧南市 禰宜田政信市長）

- ・ 衣浦港は後背圏の産業を支える重要な港であり、いかにうまく活用するかが重要である。一昨年度から、港湾計画の改訂が進められているが、ポートアイランドへの大水深岸壁やふ頭用地の整備、産業廃棄物処分場を含めた第2期埋立計画の促進をお願いしたい。
- ・ 衣浦港を最大限活用するためには、交通ネットワークの整備が必要である。渋滞解決のため、衣浦トンネルの低額化、臨港道路の整備をお願いしたい。
- ・ 西三河地区の南部は、高速道路や高規格道路がないため、名浜道路の整備をお願いしたい。また、国道419号の早期全線4車線化をお願いしたい。
- ・ 臨海部には、新たに企業が進出する土地がないため、緑化率の緩和や企業間の土地の斡旋など、未利用地の有効活用を検討しているところである。県所有の未利用地についても活用をお願いしたい。
- ・ 衣浦港は、港湾施設の老朽化、航路・泊地の埋没による機能低下が見受けられる。予防保全型の維持管理をお願いするとともに、民間の専用岸壁の維持補修への支援制度の拡充が求められている。また、高潮対策や耐震対策を着実に実施するとともに、水門・陸閘門の自動化や、港湾BCPの策定など、安全で安心して暮らせる港づくりをお願いしたい。
- ・ 先日、県が公表した南海トラフ大地震の被害予測について、そこで示されたような最大級の規模の事例が県内で過去に生じた痕跡はなく、実際に発生する確率は非常に低いという話もある。県としてどう考えているかを教えていただきたい。その予測では、逃げる以外に対策のとりようがないと感じた。また、今後、発生可能性がもう少し高いケースの予測も出される予定と聞いており、それを少しでも早く出して欲しい。

（刈谷市 竹中良則市長）

- ・ 本市は、愛知県の経済活動を牽引するとともに、世界をリードする創造的な産業拠点を目指す中核都市として、今後も重要な役割を果たしていきたい。
- ・ そのためにも、三河の内陸部と衣浦港を結ぶ物流の南北軸を担う都市計画道路衣浦豊田線、そして、衣浦豊田線と国道23号の連絡強化のための一般県道小垣江安城線、国道1号のバイパス機能を有する都市計画道路名古屋岡崎線の早期事業化をお願いしたい。
- ・ セントレアや名古屋港方面との物流を強化する、「三河知多アクセス道路(仮称)」について、市では、積極的に検討していくので、県としての位置づけをお願いしたい。
- ・ 特定都市河川浸水被害対策法の特定都市河川の指定を受けている境川、逢妻川及

びその支川である発坑川の河川改修や、境橋、刈谷橋の早期改築、浚渫をお願いしたい。また、排水機場の自動化、水門操作の遠隔化をお願いする。

(安城市 神谷学市長)

- これから10年・20年先を考える際には、南海トラフ巨大地震が発生するという前提に立って社会のあるべき姿を考えていかなければならないと思っている。
- 東日本大震災では、港湾施設の被災によりサプライチェーンが断裂されたことを教訓として、港湾施設の津波対策、耐震化、液状化対策の早期実施と、被災後に迅速に港湾機能が回復できる体制の整備について、充実を図っていただきたい。
- 港湾のみならず、災害に強い道路ネットワークの整備、橋梁の耐震性向上をお願いしたい。
- 広域下水道の終末処分場は、概ね海岸部に近い地盤の弱いエリアに建設されている。東日本大震災では、津波により処理機能が失われ、未処理の下水が市街地等へ流れ出し、衛生的に非常に憂慮すべき状況が続いたと聞いているので、災害時の下水道施設の機能確保に関する対策をお願いしたい。
- 今年は、新美南吉の生誕100年である。新美南吉は広い世代になじみがあり、全国から観光客を集められる可能性がある。単体で取り組むのではなく、安城と半田を組み合わせ、広域的にプラスαを付加し、愛知の観光としてうまくまとめて、全国的にアピールしていただけるとありがたい。

(西尾市 榊原康正市長)

- 三河湾に面する海岸線距離が約62kmにのぼる本市では、防災・減災対策を最重要課題として取り組んでいるので、ハード・ソフト両面からの強力な支援をお願いしたい。
- 名鉄西尾蒲郡線は、東西の三河をつなぐ、高齢者や学生の足として不可欠な公共交通機関である。また、愛知こどもの国は、県内最大の児童遊園であり、地域の貴重な財産である。地元として、存続に向けて懸命に取り組んでいるので、県においては、児童・生徒の社会見学のほか、県内外からの誘客を図るなど、支援をお願いしたい。
- 企業誘致や観光誘客を進める上で、社会基盤の整備が不可欠である。名浜道路の整備促進と、都市計画道路安城一色線や一般県道西尾幡豆線など、幹線道路の速やかな整備を図っていただきたい。

(知立市 林郁夫市長)

- 本市は、交通の利便性が高いこともあり、昨年、転入率が県内で1位となった。そうした背景も踏まえ、今後とも、知立駅の連続立体交差事業、区画整理事業、再開発事業の更なる推進をお願いしたい。
- リニアが開業すると、知立駅までが東京から1時間となる。当市は古くから宿場町として発展してきた中で、知立駅周辺を中心として、定住人口・交流人口を増加させていく取組のほか、的確かつタイムリーに欲しい情報を提供する情報関連の施

策や、人が集いやすく、そして、住みやすい交通施策を、ハード・ソフト両面から展開していきたいと考えているので、ご指導をお願いしたい。

- ・ 知立神社に奉納される「山車文楽」と「からくり」は、ともに国指定重要無形民俗文化財になっており、来年春には、全国山・鉦・屋台保存連合会総会の全国大会を開催する。愛知の祭文化を売り込む絶好の機会であるので、ご支援・ご指導をお願いする。

(高浜市 吉岡初浩市長)

- ・ 沿岸部に立地している企業が内陸部に土地を求められることがあるが、産業の活性化のためにも、農振除外など、土地利用規制の手続きがスムーズに進められるようお願いしたい。
- ・ 防災対策として、樋門等の遠隔化・自動化をお願いしたい。
- ・ リニアが開通すれば、西三河の産業とのつながりで来訪する方も多と思うので、西三河地区内をつなげる交通網やリニアの駅から西三河地区への交通網をきちんと整備する必要がある。
- ・ 衣浦大橋渋滞緩和のための国道 419 号の立体交差化が進んでいるが、半田市側を含めた、4車線化を含めた早期整備をお願いしたい。
- ・ 今後の課題として、認知症対応や健康増進といったことが重要になると思うが、地域包括ケアについて、市町が施策を講じるにあたって、県でモデル的な取組を行って欲しい。
- ・ 平成 27 年度に、子ども・子育ての新制度が開始されるが、子どもの数は変動が大きく、保育園・幼稚園を自治体で整備し続けていくことは大変である。フレキシブルな子育て支援ができるような支援策を、新制度の開始前に、考えていただきたい。
- ・ 本市は、地場産業である瓦の事業者が多い。事業の転換や海外展開を図ろうという場合に、こうした地場産業をコーディネートする仕組みづくりなどの支援をお願いしたい。
- ・ 産学連携というと、工業系の大学と企業との連携がよく言われるが、まちおこしという点では、芸術関係などにおいて、文科系の大学でも、企業や地域と一緒にやれると思う。例えば、飾り瓦コンクールでも、学生がデザインした鬼瓦や飾り瓦は非常に面白い。県立芸術大学や県立大学などをはじめ、積極的に地域と連携できるようご支援いただきたい。

(刈谷商工会議所 太田宗一郎会頭)

- ・ モノづくりの人材育成の場として、県内各地域に根差している少年少女発明クラブの活動をより活性化させるための支援をお願いしたい。また、平成 26 年度には、刈谷市の少年少女発明クラブの再構築を図っていく予定であるので、力強い支援をお願いする。
- ・ リニア開通も見据え、駅利用者に対する利便性向上や駅を題材とした地域の活性化の観点から、刈谷駅構内における商用施設の設置推進に向けて、関係機関への働

きかけをお願いしたい。

- ・ アクセス機能と物流の効率向上のため、衣浦豊田線の4車線化、都市計画道路名古屋岡崎線、豊田刈谷線、一般県道小垣江安城線の整備促進をお願いしたい。

(碧南商工会議所 平岩統一郎会頭)

- ・ 商工会議所が取り組むべき課題は、中小企業の活性化や、人材育成、まちづくり、観光振興など多岐にわたっており、会員増強によって組織を一層強化しつつ、地元関係機関との連携も図りながら、事業を推進していかなければならないと考えている。地域の暮らし、雇用を直接支える中小企業を、短期的な視点ではなく、長期的視点に立ち、応援いただきたい。
- ・ 愛知のモノづくり産業を維持・継続するため、中小企業の技術力向上を図る支援施策の一層の充実をお願いしたい。
- ・ 東海・東南海地震などに備え、企業向けの防災セミナーの開催やBCP策定のサポートなどに取り組んでいるが、引き続き、行政と連携を図りながら、地域の防災力向上に努めていきたい。
- ・ 衣浦港について、更なる機能強化の推進、港湾維持管理の予算確保、衣浦ポートアイランド第2期産廃棄物処分場の建設促進、民間企業の専用岸壁の維持補修への支援の拡充をお願いしたい。また、衣浦港の特徴や将来を見据えた港湾計画の策定をお願いしたい。
- ・ 名浜道路は、当地域の新たな東西幹線軸であるとともに、中部国際空港、衣浦港、三河港といった国際物流拠点を連結し、災害時には緊急輸送路などの役割を果たすものである。現行の道路事業の3便益では十分に評価できない防災面の機能を適切に評価して、早期事業化をお願いしたい。
- ・ 衣浦トンネルについては、産業のみでなく、生活道路としての機能も有しているため、早期の全線無料化か、ワンコインでの通行の実現をお願いする。

(安城商工会議所 田村脩会頭)

- ・ 「環境首都安城」の観点から、「アンジョウハーツプロジェクト」として、ペットボトルのキャップを再利用した「キャップアートパネル」づくりなどを進めている。地域に根ざした産業育成でもあるので、ぜひ、お力添えをいただきたい。
- ・ 「安城七夕祭り」については、毎年100万人を超える来客があるので、県の観光PR事業にも組み入れていただきたい。
- ・ 新産業のひとつとして、バイオ技術を応用した食品化学工業などの工場進出を図っているが、その基盤となる道路として、都市計画道路名古屋岡崎線、主要地方道豊田安城線、都市計画道路安城高浜線の整備推進をお願いしたい。

(西尾商工会議所 都築勝久会頭)

- ・ 「産業空洞化対策減税基金」による補助制度など県の手厚い企業支援策について、モノづくり産業の集積地として、心強く思っている。今後とも環境の変化に対応した各種施策による支援をお願いしたい。

- ・モノづくり産業の国際競争力の強化、三河湾の資源や歴史などを活かした観光振興に向け、また、南海トラフ巨大地震を見据えた緊急輸送、防災活動拠点の連絡、さらには、津波の防波堤として、名浜道路の実現をお願いしたい。さらに、市内を南北に縦断する都市計画道路安城一色線、東西に横断する一般県道西尾幡豆線の整備促進をお願いしたい。
- ・西尾市もそうだが、同一市内に、商工会議所と商工会が、それぞれあるところがある。非効率な面もあり、合併していくことが必要だと思う。しかしながら、商工会議所と商工会が合併するには、商工会を解散して、個々の会員が新たに会議所に加入するという手続きを踏まなくてはならず、商工会議所と商工会が合併できるよう、法律の改正なりを中央に働きかけていただきたい。

(高浜市商工会 石原順二会長)

- ・企業誘致について、高浜市では、大規模な企業が進出できる用地が限られていることから、比較的小規模な工場の進出について、支援制度の新設や、進出企業に対する金融・税制面などの優遇施策の実施をお願いしたい。
- ・小規模事業者の支援について、県の「経営革新計画」の承認を活用しているが、現在の低利融資や信用保証の特例などの支援策のほかにも、前向きに頑張っている小規模事業者への一層の支援をお願いしたい。
- ・11月に豊川市で開催される「B-1グランプリ」に、県内からは、『豊川いなり寿司』で豊川市を盛りあげ隊」と、「高浜とりめし学会」の2団体が出展する。この大会での上位入賞は地域経済への波及効果が高い。情報発信を含め、一層の支援をお願いしたい。また、県内外から40万人超の人が訪れるため、他の観光資源のPRなど、観光をキーワードとした関連産業の育成・振興に努めていただきたい。
- ・三州瓦の地場産業の振興について、和風住宅の減少によって、日本の街並みや景観を担ってきた鬼瓦や飾り瓦が減少し、「鬼師」等、伝統技術の衰退が危ぶまれている。当商工会では屋根瓦のみならず、壁材やインテリアなどの新製品の開発にも支援を始めたところである。県としても、公共の建物等への瓦を活かした日本建築の投入などを含め、情報発信や当地の地場産業への支援をお願いしたい。

(知立市商工会 新美文二会長)

- ・知立市は鉄道高架事業を進めているが、こうしたハードを活用するソフト事業が肝心であると考えている。グローバル化やICT化が進展する中で、交通の要衝であることや、知立神社やカキツバタといった地域資源を有することも踏まえ、知立駅前に、ICT技術を活用して、スマートフォンやタブレットなどから様々な情報が入手・発信できるような、ランドマーク的拠点をつくりたいと考えているので、県も支援をお願いしたい。
- ・リニアの開通により、東京と名古屋が40分で結ばれることは良いが、知立から豊田への時間短縮のために、三河線の複線化をお願いしたい。また、駅移転問題も含め、知立市の北部地域の開発を推進していただきたい。
- ・全国の事業所の99%超が中小企業で、そのうち小規模事業者が40%程度を占め

る中で、小規模事業者の衰退、廃業により、地域の安全や安心の問題が生じている。例えば、商店街は、街路灯を維持しているが、費用の面から、消灯してしまったり、建替えができないといった問題が生じているので、よろしく願いしたい。

(一色町商工会 都築勇一会長)

- ・ 名浜道路は、西三河南部地域の「命の道」として、防災面、物流面のほか、観光、産業、文化、歴史のさらなる発展に不可欠であり、早期整備をお願いしたい、また、名浜道路とあわせて、南北道路の実現も必要であるので、よろしく願いしたい。

(西尾みなみ商工会 鈴木敏彦会長)

- ・ 西尾市への合併以来、吉良まちづくり協議会を立ち上げ、各種のイベントを実施するなど、地域の結束力を高めている。さらに、幡豆のイベントまで拡大しながら、この地域全体を活性化できないか検討している。
- ・ 地場産業や観光振興など、地域の活性化には、交通アクセスが必要。名浜道路や、南北の道路など、地域の発展の将来性を見据えた効率的な道路の施策をお願いしたい。

(大村知事)

- ・ 先日、県が公表した南海トラフ沖の「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」は、昨年8月に内閣府が公表した南海トラフ巨大地震の被害予測をもとに、県内市町村別の被害予測を出したものである。
- ・ 県の予測を試算するのに使用した内閣府の被害予測は、発生する確率は非常に低いと思うが、マグニチュード9.1という規模で、しかも、発生時間や状況なども最悪のケースを積み重ねた場合のものである。県としては、これを恐れることなく、ハード、ソフトを含めて乗り越えていきたいと考えている。
- ・ 秋に、愛知県防災会議を開催するので、その時までには、さらにデータを積み上げていく。また、地震対策のアクションプランの見直しも行う。いろいろとご相談してやっていきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- ・ 今年11月に、西尾市において、「あいち花フェスタ」を開催するので、よろしく願いしたい。
- ・ 豊川のB-1グランプリが、11月9・10日に開催される。開催地の『『豊川いなり寿司』で豊川市をもりあげ隊』は審査対象にならない仕組みと聞いている。愛知県で唯一審査対象となる「高浜とりめし学会」の入賞を目指し、近隣の皆さんもぜひ応援をしていただきたい。
- ・ 新美南吉生誕100年に当たっては、安城市と半田市がぜひコラボレーションしてやっていければ良いと思う。
- ・ 工業系以外の大学との産学連携に関して、芸術系の大学は、県芸大のほかにもある。それらを結んでトリエンナーレをやるので、ぜひ、それも含めて、しっかり考えていきたい。
- ・ 昨日、国道23号豊橋東バイパスの開通式典に出席した際に、二川宿の本陣資料

館と、湖西市の豊田佐吉記念館に立ち寄った。豊田佐吉記念館には、豊田佐吉翁の奥様手作りの小さな胸像がある。そのレプリカが、豊田紡織や刈谷市の亀城公園にあるということで、そうしたゆかりのものを大切にしていくことは大事なことだと思う。

- 西三河地区の産業にしっかり頑張ってもらいたくことが、愛知の経済、日本の経済を支えていくことになると思っている。これからも、皆さんと一緒に頑張っていくので、よろしくお願ひしたい。